

2015アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[金沢市立四十万小学校] 担当教諭名[横山 貴彰] (6年3組 27名)

交流相手国[イラン]

海外学校名[Saba School] 担当教諭名[Nooshin Sharifi]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	国際交流～伝えよう！金沢の魅力～	70
	英語	Welcome to Kanazawa	2

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	お互いの町の魅力を伝え合おう
絵に込めたメッセージ	「お互いの町の魅力」ということをテーマに、いろいろな所に自分達が学習してきた金沢の魅力を散りばめた。中央には、「固く握手をする絵」を入れた。日本とイランが、「手と手を取り合いながら、これからもずっと仲良くしていく」というメッセージを込めた。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの国に対する理解の深まり、その中で得られる相互の良さの認め合いや友好的な関わり方を学ぶことが出来た。 ・イランに伝えるという相手意識を持ちながら、自分達の町「金沢」についても学習を深めたことで、自身の町についても見直し、金沢に生きることの誇りを持つことにもつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手国とのやり取りがほぼフォーラムのみになってしまっていたため、子ども達同士がつながっている感覚は少なかった。子ども達もコミュニケーション能力の必要性は、今回あまり感じていなかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<p>これまでは、世の中で起こっている事象に対し、遠い国の出来事、自分達には関係の無い出来事…というように受け止めていた。しかし、最近ではイランの情勢が報じられる度に耳を傾け、自分自身のことのように語り心配する姿も見られるようになっている。遠い国の出来事を、自分達の仲間がいる所・比較的親近感のある所での出来事として捉える感情が芽生えてきたことは、確かである。</p>	<p>国際相互理解ということについては、立場上意識は高く持っていたつもりだったが、実際に相手がいるということ、応答があるということ、一つの作品が仕上がるということ、実体験を通してのリアルな国際理解は本当に刺激的ではあった。私自身も、世界のことがより身近に感じるが多くなったのは、事実である。</p>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	7月 10月	・既習の英語をもとに、自己紹介文を書く。 ・クラス紹介のビデオを撮り、イランへ送る。	海外と直接つながる経験がほぼ初であったため、とても意欲的に行っていた。ただ、相手に届いたことが口頭報告になったため、リアクションを提示出来ると尚良かった。	英語2 総合4
テーマ学習	9月 ～ 11月	・「金沢の魅力」について、各自調べ学習を行う。 ・グループごとに、金沢めぐりを行う。 ・調べてきた「金沢の魅力」を、各グループで発表する。 ・金沢の名所を、英文と共にイランへ送り紹介する。	自分達の住む地域の魅力を、再確認することが出来る良い機会となった。また、その魅力をどのようにして伝えればより一層伝わるか、相手意識をしっかりと持った活動となった。やることははっきりとしていたため、自信を持って意欲的に取り組んでいた。	総合50
構図決定	11月	・共同壁画制作に向け、実行委員がテーマを発表。テーマをもとに描きたい物を募集し、二つの案に絞り込む。最終決定を相手校に委ねるため、フォーラムで提案。	自分達が今まで調べてきた物の中で、どれを絵に活かすかしっかりと考えながら活動していた。実行委員は、全員の意見がしっかりと反映されるように、考えて配置していた。	総合6
壁画制作	12月	・アートマイル実行委員が下絵、配色を考える。 ・クラスが2グループに分かれて、全員で色塗り。	実行委員の案をもとに、忠実に丁寧に色塗りを行った。役割分担もしっかりし、自主的に仕事を探す姿も見られ、とても良い雰囲気の中作業は進行。	総合8
鑑賞・振り返り	3月	・グループごとに、作品鑑賞会。 ・作品とともに記念撮影。 ・喜びの笑顔を、フォーラムアップ。 ・卒業式当日、職員室前に展示。	共同で一つの物を創り上げた喜び、出来上がったという感動、国際理解の深まり、さまざまなことを口にしてきた。やり切った思いに溢れていた。	総合2

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	5	「金沢の魅力」について、相手意識も持ちながら調べてまとめて伝える姿を見て、金沢に生きることの誇りを感じられたと思う。
異文化の理解	A	5	イランは男女別の教育を受けること、服装も違うこと等、違いを感じ取り、違いを理解しようと努める姿が印象に残っているから。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	2	教師間でのやり取りが多くなり、当初考えていたような子ども同士のやり取りを活発に行うことが出来なかったため。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	4	自分達に必要な情報を取捨選択し、活用していく力はほぼ身についた。しかし、一部では情報の羅列という児童も見られた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	4	常に相手意識を持ちながら活動させてきたため、お互いに分かり合おう、協力しようという姿は数多く見受けられたため。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	実行委員を中心に、役割分担もしっかりし、自主的に仕事を探す姿も見られ、とても良い雰囲気の中で作業が行えたから。
学習を追究する意欲	B	3	相手国に対して得られた知識がほぼ情報機器によるものであり、今回の交流の中から新たに得られたものは少ないと感じるため。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	5	握手でつながるというメッセージ性も込めながら、お互いの友好の架け橋となるような構図を決め実行に移していた。
作品を鑑賞する力	B	4	しっかりと一つの作品となって返ってきたことに、感動を覚えた。子ども達は、喜びや満足感等、さまざまな思いを感じていた。